



郷土民謡の研究と保存

稲田 作 治

(田 沢 湖 町)

稲田氏は、明治二十三年頃より郷土民謡とこれに伴う三味線の稽古に入り、以来六十余年の長きにわたって研鑽を重ね、一流の域に達するとともに、私費を投じ、自宅を開放して後進に正調郷土民謡を伝習してきた。この間、公共団体、文化団体、報道機関等の主催に係る芸能大会に於ては格調正しい秋田民謡を紹介して賞賛され、数多くの賞に輝いている。現在氏の指導下にある生保内郷土芸能振興会は数十名の会員を擁しているが、その足跡は全国いたるところに及び、秋田民謡の声価を高めている。

これらのことは名利に走らず、芸については寸毫の妥協を許さず、その普及と保存に努めてきた氏の努力に負うところ大である。

なお民謡の研究家が相次いで採譜に訪れるのに対しては積極的に協力しており、また、昭和三十一年、毎日新聞社主催の全国選抜民舞踊競演大会に、生保内芸能振興会を卒いて出場し、見事第一位を獲得したのを記念して、自費をもって生保内公園に桜の植樹一千本を思いたち全く自らの手で四年間にわたつてなすとげる等、民謡をとおして芸能文化の向上に寄与した功績は大である。



産業教育・私学の振興

高橋 熊五郎

(秋田 市)

高橋氏は、明治四十年平鹿郡里見小学校訓導に任ぜられて以来、現在まで教職にあること五十余年県教育界に貢献してきた。

この間、学校を中心としての社会的教化を理念として学校運営に当り、産業教育、成人教育等に情熱を傾け、特に大曲高女時代の労作教育施設は文部省から絶賛され、世界教育大会にも報告されたものであり、県教育界に及ぼした影響は大であつた。又、言語教育の不振打開のため三ヶ年の才月を費して「秋田方言」を完成、また私学振興、青年会活動の育成、体育の振興等に立派な事績を残され本県教育に寄与した功績は大である。



婦人の地位向上

沢口フク

(角館町)

沢口氏は、日本音楽学校を卒業した方で、昭和二十二年仙北郡旧中川村々長に選任されたのをはじめ秋田県議会議員として三選されこのいづれについても男性に伍して堂々と職責を全うされた外、銀行取締役、社会事業団体、婦人団体、社会教育関係等各分野にわたり重要ポストを歴任されたが往くところ可ならざるはなく夫々において立派な事蹟を残されている。ことに昭和二十三年以来地域婦人団体連絡協議会の組織には心血を注いで努力され、現在まで推されてその会長に就任しているが、十一万会員よりは、よき指導者として敬慕されており、婦人団体今日の活発な運動の基礎を築き自らその先頭に立つて活躍している。氏のこれら事蹟をとおして本県婦人の地位の向上に寄与した功績は大である。



製材機械の改良考案

藤田成治

(能代市)

藤田氏は、明治四十四年秋田木材(株)会社に機械設計主任として入社以来三十五年の長きに亘り主として帯鋸機の改良、技術の指導に専念し、数多くの改良考案を行い、ことに、近代製材工場には不可欠といわれる「ノーマン・バンド・ソー」と呼ばれる全自動小割帯鋸機は氏の考案によるものであつて製材のオート・メーションに先鞭をつけたものである。

また、15横式横切帯鋸機(特殊製材のためのもの)は、国の内外を通じて例をみない特異な発明として高く評価されている。この間昭和四年にはソ連政府の招聘により同国の製材工場を指導し、また朝鮮新義州営林署の製材工場の建設を指導する等、その技術的足跡は海外にまで及んでいる。なおまた製材の生産性を向上するため薄鋸の普及に努める等氏の本県産業発展のうえに果たした功績はまことに大である。



地域社会の発展に貢献

成田 喜八

(鷹巣町)

成田氏は、大正十年鷹巣町議會議員となつてから連続六期、二十三年余、昭和二十二年鷹巣町長に就任以来連続四選され現在に至つているが、この間米代川改修、阿仁合線の延長、阿仁・田沢の奥地総合開発に努力した。また鷹巣町の大火被害に際しては適切なる都市計画を樹てて復興に当り効果を収める等町経営に真剣に取り組み、地域社会の発展に寄与し、また本県地方自治の発展に貢献した功績は大である。



稲作の安定増収

加藤金吉

(琴 浜 村)

加藤氏は、昭和十年頃より潟西村の各農業団体の役員に選任され多忙な間において稲作の増収研究を行い、ついには、昭和三十四年度米作日本一多収種競作において一〇アール当り一・一三九・四キロの全国最高記録を樹立して米作日本一の榮譽をかちえた。この快挙は一日にして成つたものではなく、土地改良、土壌改良、堆厩肥の改良増施、健苗育成、本田の整地、粒状肥料、灌水管理等に細心の注意を払い科学的な手法を採用して成しとげたものであり本県農民の模範でありその功績は大である。